

科目名	日本の文学	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群	
			全学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Japanese Literature	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
ふりがな	はしもと しほ	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	橋元志保	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	日本の近現代における代表的な作家の小説を精緻に読むことで、小説の構造・テーマ・人物像の特色等をその文化的背景を含めて理解し、批評できるようになる。			
到達目標	この授業の単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力が身につきます。 1. 小説や随筆の読解力が深まり、小説の構造・主題・人物像やストーリーの特色等を考察し、自分の言葉で表現することが出来るようになる。 2. 日本の近代史及び文学史の概要を理解し、文学の背景としての社会・制度・事件・文化等についても知識を深めることが出来る。			
授業概要	日本の近現代の著名な作家の小説を精緻に読むことで、様々な表現技法を理解し、小説の読解の基礎力を涵養します。具体的には、作品のテーマと構成、物語空間および物語時間、ストーリーとプロット、語り手と語りの戦略、人物造形の特色、人物・心理・行動描写と自然描写、文化・芸術からの影響等の観点から作品分析を行い、小説を構造的に読む技術を身につけていきましょう。また、日本の近代史と文学史の流れを理解し、文学の背景としての社会・制度・事件・文化等についても知識を深めていきましょう。			
授業計画				
第1回	ガイダンスー神話という物語ー			
第2回	小説の構造ー語り手は誰かー			
第3回	物語の主人公と登場人物たち			
第4回	小説の物語空間と時代性			
第5回	日本の近代と小説の成立			
第6回	国民国家の誕生ー司馬遼太郎『明治という国家』を読む			
第7回	司馬遼太郎『坂の上の雲』を読むIー幕末から明治維新へー			
第8回	司馬遼太郎『坂の上の雲』を読むIIー士族の反乱と西南戦争ー			
第9回	司馬遼太郎『坂の上の雲』を読むIIIー江戸から東京へー			
第10回	司馬遼太郎『坂の上の雲』を読むIVー立身出世と学歴社会ー			
第11回	司馬遼太郎『坂の上の雲』を読むVーメディアと文明開化ー			
第12回	司馬遼太郎『坂の上の雲』を読むVIー条約改正への長い道のりー			
第13回	司馬遼太郎『坂の上の雲』を読むVIIー日清戦争			
第14回	司馬遼太郎『坂の上の雲』を読むVIIIー日露戦争ー			
第15回	総括ー国民文学としての日本文学ー			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	1. 授業で取り上げる小説や資料を、指定された頁まで必ず読んでおきましょう。難解な語句や漢字は必ず、その読み仮名や意味を調べておきましょう(1時間程度)。 2. 毎回課題プリントを配布しますので、授業内容を復習しながら記述し、提出してください(1時間程度)。 3. 授業の際に紹介した小説や評論等をぜひ読みましょう(1~2時間程度)			
履修条件 受講のルール	特にありません。ただ授業態度が真面目で、主体的であることが望ましいです。			
テキスト	司馬遼太郎『坂の上の雲』第1巻(文春文庫)を必ず購入してください。			

	上記以外は、資料を配布するか、ポータルサイトに掲載します。
参考文献・資料	授業時に紹介します。『芥川龍之介全集』第1～第3巻（筑摩書房 2009年） 司馬遼太郎『坂の上の雲』第1巻～第8巻（文藝春秋 1999年）・司馬遼太郎『明治という国家』（日本放送出版協会 1994年）他
成績評価の方法	<p>【主体的な学びの姿勢（15%）、課題の提出（25%）、試験（60%）】を基に、総合評価をします。</p> <p>① 出席確認時に不在だった場合、原則としてその回は欠席とします。</p> <p>② 講義中に無許可で退出した場合は、欠席とします。</p> <p>③ 授業中の迷惑行為は厳禁です。そのような行為を繰り返し、注意しても改めない時は、履修または単位を認定できない場合があります。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	火曜日 13時00分～14時30分／木曜日 13時00分～14時30分 ※これ以外の時間は事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	人はどうして、物語を好むのでしょうか。本講義では、優れた文学を様々な観点から読み解くことで、読解力・思考力を始めとする国語能力の向上を目指していきます。また、司馬遼太郎の代表作である『坂の上の雲』を読むことで、近代日本の夜明けともいべき時代の息吹を感じてほしいと考えています。なお、近現代史は公務員の採用試験に出題される頻度が高い分野でもあります。